

思い出

A組 川船広秋

50年も前の事なので記憶は定かでないが確か県陵の学校山林があつて、2学年の時その山で入会作業をした。

間伐材を生徒が山道に引き出し引き出された木材は用務員(赤木)さんや近所のおじさん等により回収され蒔き割をして柔道場隣の薪小屋に蓄積された。

自分は2年生の3学期ごろ生物科の助手に(公保教諭、秋田教諭、地歴の降旗教諭)指名され、生物科教室と同講師室の管理が仕事になり、冬季は毎朝両室の薪ストーブの焚き付けを、薪小屋から薪を何束も持ち込んで行った。(ちなみに助手は毎月の学費800円が免除の上何百円かの給料がもらえた)

学生の3年間は遊ぶことばかりを考えていた。

軽音楽同好会、スケート同好会、写真部ではフィルム現像はもとより当時走りのカラー現像に挑戦したり、ブームのフォークソングをギターを買い毎日学校帰り大名町の唐沢産婦人科病院空部屋で練習をした。

夏休みは山岳部の上高地キャンプ場のテントキーパー、生物部でこの研究、柔道部では黒帯取得まで。

今思えばたった3年間ではあつたが、社会生活30年分に匹敵するほどの「半分、青い」時代には思い出がある。